



アフターコロナにおける

最新のオフィス創り

～メーカーの取り組みからヒントを得る～

Part.1

● 今後オフィスに求められるもの

コロナ禍を経て、オフィスに求められるものが変わってきています。
オフィス家具の主要メーカーの取り組みを比較する事で、
今必要としている課題解決のヒントを得ることができます。



第1弾となる今回は、各メーカーのコンセプトを比較していき、
アフターコロナの中で、企業の成長のために必要な要素を
ご紹介させていただきます。

※次回から、最新の悩みの解決策を詳しく打ち出します。

● メーカーの取り組み比較表

			
 生産性	ABC-W (Activity Based Working × Compact Workplace) コンパクトで機能的なユニットによる 空間構成の実践	10のふるまい 想定される社員の活動を 『10のふるまい』に分類し、 活動ごとに最適な空間を創っている	7つの活動分類 想定される社員の活動を 大きく7つに分類し、 活動ごとに最適な空間を創っている
 ウェルネス	健康ラボ 心身ともに健康で、生き生きと仕事に 取り組むために、健康にテーマにした 様々なツールを集約して自ら検証して いる。	WELL認証「ゴールド」 レベルを取得 オフィス環境から社員への健康への 取り組みを実践	WEBウォーキング大会 (健康チャレンジログ等)の イベント実施で健康経営の実現
 コミュニケーション	サテライトオフィス運用 サテライトオフィスの運用で、 部門間を超えた交流を促している	社員の位置情報取得 3000坪のオフィスでも、必要に応じて 社員が会って話せずことを促すた め、ビーコンを使って位置情報を取 得	自社ビルハイブリッド型 オフィス内でカフェ、コラボ、報連 相、意思決定の4つのタイプに分け たコミュニケーション空間の創出

● Part.1 まとめ

3つの共通事項

1

生産性



2

ウェルネス



3

コミュニケーション



3つの共通事項はアフターコロナにおける「企業の成長因子」と考えられます。次回からは、「企業の成長」という視点で3つのキーワードを掘り下げていきます。

実際にショールームを見てみたいといった方は私たちをご案内します。
気軽にお問合せください。

アフターコロナにおける

最新のオフィス創り

～これからの生産性向上～

Part.2

● Part.2 これからの生産性向上

3つの共通事項



生産性



2

ウェルネス



3

コミュニケーション



3つの共通事項はアフターコロナにおける「企業の成長因子」と考えられます。今回は、「生産性」について掘り下げて行きたいと思います。

実際にショールームを見てみたいといった方は私たちがご案内します。
気軽にお問合せください。

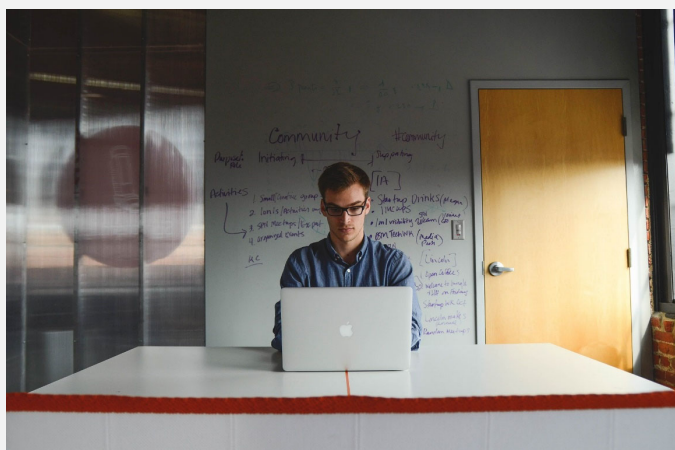
● 各メーカーの取り組み

生産性について

生産性向上を目的とした
ABW (active based working) の導入が増加しています。
※働く内容によって働く場所を選ぶ

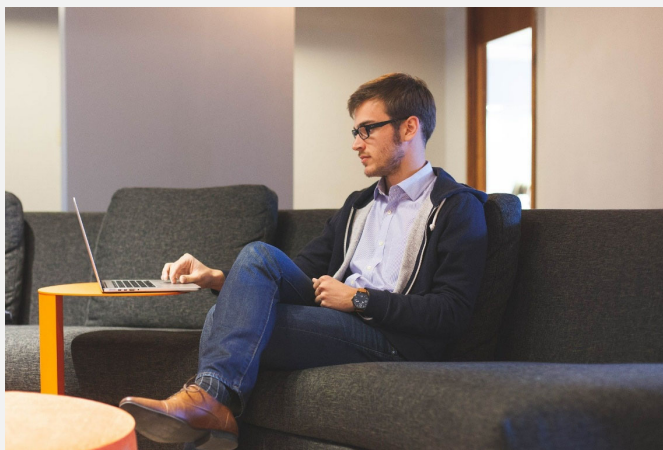
集中

誰にも話しかけられずに集中して生産性を高める場所。



リラックス

気持ちを落ち着かせて、新しい発想を促し生産性を高める場所。



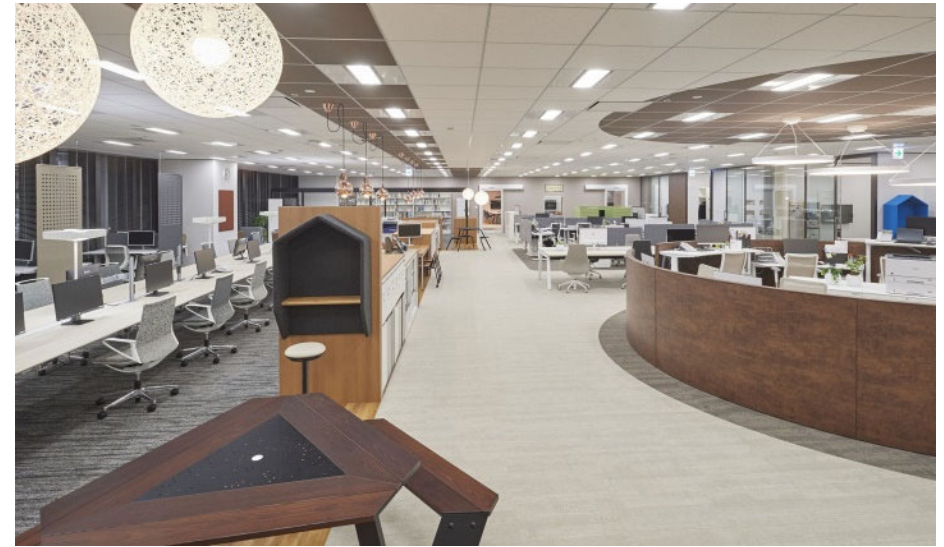
コミュニケーション

コミュニケーションを効率よく行って生産性を高める場所。



● オカムラ

業務で頻繁に利用する環境は20m以内に配置する方が効率が良いという考え方のもと、コンパクトにまとめたABW（ABC-W）を実践しています。また人によって集中できる環境や話しやすい環境は異なるので、偏った環境にならないようバランスを考えた構築をしています。



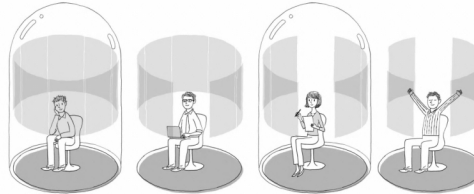
■機能的（集中・交流のバランス）

Activity Based Working

仕事の内容や目的に合わせて、オフィスの中で作業する場所を多様な場所からワーカーが選んで働けるスタイル。Work Diversity を解決する一つの手法。

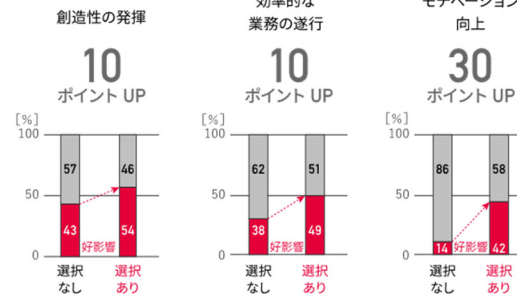


人によって集中しやすい環境の好みは違う。



【ABWの3つの効果】

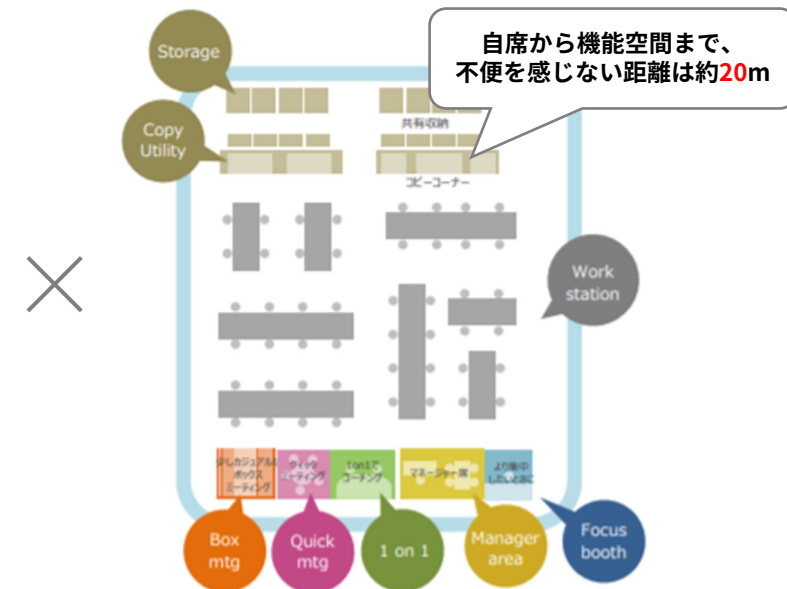
希望する席で仕事ができただけの効果



■コンパクト（距離）

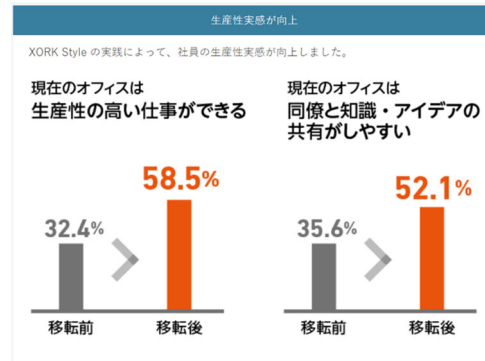
Compact Working

日々の業務に必要な環境を程よいエリアでコンパクトにまとめ“快適に”そして“効果的に”働けるようなヒューマンスケールに配慮されたオフィス。



● イトーキ

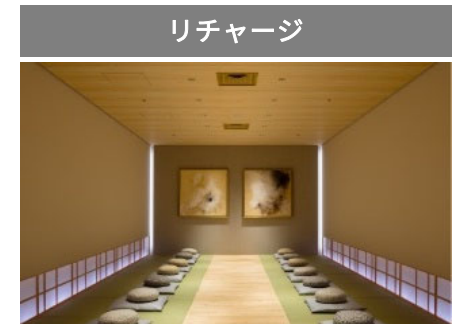
想定される社員の活動を「10のふるまい」に分類し、それを860名の社員が実践できるよう11F 600坪、12、13F 800坪、計2200坪 3フロアの広大な空間に構築しています。



■10のふるまい

1人			2人	
高集中 中断されることがない高いレベルの集中が求められる個人作業。	コワーク 短い会話や質問などを交えメンバーと場を共有しながら行う個人作業。	電話/WEB会議 物理的には一人で行う。バーチャル上でのコラボレーション。	二人作業 二人が近距離で横並びになり、じっくりと行う作業。	対話 二人もしくは三人で行う議論や会話。予約でも突然でも良い。
3人			その他	
アイデア出し 新たな知識やプロセスを構築するために3人以上の協働活動。	情報整理 計画の進捗を整理・議論するための、3人以上の計画された会議。	知識共有 三人以上のグループによる知識共有。主にプレゼンターが話す。	リチャージ 仕事から隔絶し、チャージや心身の切り替えを行う。	専門作業 特別な設備を必要とする専門的な業務。

■業務のタイプに合わせてワーカー自身が働く環境を選択できる



● コクヨ

「経験を拡張する」という働き方の下、想定される社員の活動を「7つのアクティビティ」に落とし込んでいます。自社ビルを活かし、フロアごとにテーマをもたせABWを構成しています。



■7つのアクティビティ分類

高集中ワーク

外部からの刺激を遮断したり限定して、ひとつのことに没頭する・深める

オペレーションワーク

周囲の雰囲気や動きを感じながら、個人の仕事をスピーディに進める

チームビルディング

メンバーとの理解・信頼感を深め、チームの一体感や帰属意識を高める

チームシンキング

互いの考えを視覚化して共有し、目標を合せて、アイデア出しや議論をする

特殊・専門ワーク

特殊機能や環境が必要な、業界・業種特有の専門的な仕事を行う

社外関係構築

自社の理念を伝え、共感してもらい、仲間を増やし信頼関係を築く

高機密性ワーク

高いセキュリティを要する情報を扱った議論などを行う

■フロアごとにテーマを持たせたABW

9F	8F	7F
企む プロジェクト カルチャー共有 教育	集う プロジェクト カルチャー共有 教育	試す プロトタイプینگ 五感を使う
6F	5F	4F
遊ぶ チームビルディング 教育 出合い	整う 仕事環境 健康状態	捗る ハイスเปック環境 超速 超便利

● 100社100通りのABW実践

各社のABWへの取り組みは、コロナ禍においてさらに大きく変化しました。

様々な整備や準備がしっかりと行われていく必要がございます。

まずは、皆様にとって優先すべき事項やこの手法を採用する目的を明確にして
お考えいただくことが、実践成功の近道になります。

【ABW 成功のPoint】

1. **チーム・組織体制の変化・形成**（意思決定・成果の測定）
2. **働き方の変化**（仕組みと意識の変革、理解）
3. **環境の整備**（収納・インフラ・機能など）

★各社ショールーム見学の案内★

- ・ オカムラ : <https://okamura-t.resv.jp/reserve/calendar.php?x=1622070843>
- ・ イトーキ : <https://cs.itoki.jp/showroom/tokyo/>
- ・ コクヨ : <https://www.kokuyo-furniture.co.jp/showroom/tokyo-sr/>

アフターコロナにおける

最新のオフィス創り

～これからのウェルネス～

Part.3

● メーカーの取り組み比較表

			
 生産性	ABC-W (Activity Based Working × Compact Workplace) コンパクトで機能的なユニットによる 空間構成の実践	10のふるまい 想定される社員の活動を 『10のふるまい』に分類し、 活動ごとに最適な空間を創っている	7つの活動分類 想定される社員の活動を 大きく7つに分類し、 活動ごとに最適な空間を創っている
 ウェルネス	健康ラボ 心身ともに健康で、生き生きと仕事に 取り組むために、健康にテーマにした 様々なツールを集約して自ら検証して いる。	WELL認証「ゴールド」 レベルを取得 オフィス環境から社員への健康への 取り組みを実践	WEBウォーキング大会 (健康チャレンジログ等)の イベント実施で健康経営の実現
 コミュニケーション	サテライトオフィス運用 サテライトオフィスの運用で、 部門間を超えた交流を促している	社員の位置情報取得 3000坪のオフィスでも、必要に応じて 社員が会って話せずことを促すた め、ビーコンを使って位置情報を取 得	自社ビルハイブリッド型 オフィス内でカフェ、コラボ、報連 相、意思決定の4つのタイプに分け たコミュニケーション空間の創出

● オカムラ

「KEN - COラボ」

心身ともに健康で、生き生きと仕事に取り組むために、健康をテーマにした様々なツールを集約して自らサテライトオフィスにて検証している。



■WELL認証を意識したキーワードを取り入れる。

「活動量」
上下昇降デスクで、
立って働くことや立ち座りを促進。

「空気」 木製家具やVOC低減した家具
「光」 窓からの自然光の取り込み
「食物」 ワーカーの健康に配慮した飲料機器の設置

「心」
植物を空間に導入し、
ワーカーの視線内に配置



● イトーキ

自社内でWELL認証「ゴールド」レベルを取得し、ウェルネスへの取り組みを実践しています。

■WELL認証について

①空気、②水、③食物、④光、⑤フィットネス、⑥快適性、⑦こころの7カテゴリにおいて、第三者審査機関であるGBCIによって厳しく評価され、一定の基準値を満たすことで得られる認証

■WELLの特徴的実践

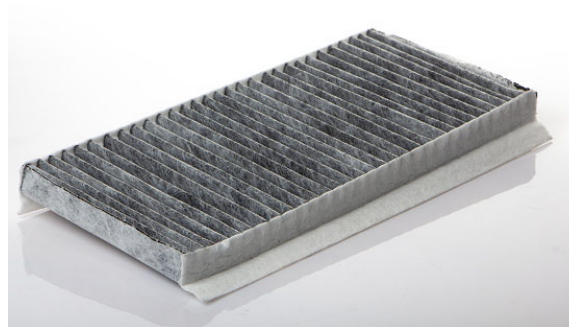
「食物」

毎日販売する食品、飲料にはトランス脂肪酸や1食1本あたり30g以上の砂糖を含まない。



「空気」

通常空調機に設置されているフィルタに「活性炭フィルタ」を追加して設置している。(病院が導入している空気清浄機と同グレードの空気環境)



「光」

1日の体内時計や生体リズムを考慮し、時間によって照明の色温度が変わる運用をしている。



● コクヨ

自発的に健康促進の取り組みができるように、各チャレンジプログラムを設定し、継続できる工夫をしている。



「福利厚生連動チャレンジ」

マイル式福利厚生制度と連動したチャレンジプログラムを実施。目標や改善達成状況に応じてマイルが付与されます。



「ウォーキングチャレンジ」

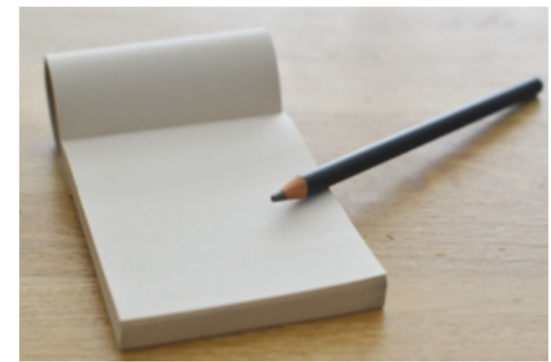
バーチャルコースの設定や、ランキング表示など楽しみながら歩数を記録できる工夫がされています。



HP (<https://www.kokuyo.co.jp/csr/society/health/>) に詳細がございますので、是非そちらもご参照ください。

「生活習慣チャレンジ」

生活習慣の約50項目と9種類のコースがあり、専用アプリで記録を付けます。「できた・できなかった」に関わらずマイルが付与されます。



● Part.3 まとめ

3つのポイントの好循環



■ココロとカラダのケアの両立

各社の取り組みを見てみると、コロナ以前から取り組んでいる内容であり、生産性向上を意識した取り組みであることが分かりました。



ココロ（精神・ストレス）とカラダ（病気、肥満）の健康を守ることで、社員が元気に安心して仕事ができ、活気溢れる雰囲気により良い文化形成に繋がっていきます。企業側が社員のココロとカラダの健康を重要視することで、そこで働く人々が頑張ることができ、企業の生産性が上がり、企業の成長に繋がっていくと考えます。

社員の健康を守ることで、次回ご紹介する「コミュニケーション」にも良い相乗効果を見込むことができます。

アフターコロナにおける

最新のオフィス創り

～これからのコミュニケーション～

Part.4

● Part.4 これからのコミュニケーション

3つの共通事項

1

生産性



2

ウェルネス



3

コミュニケーション



3つの共通事項はアフターコロナにおける「企業の成長因子」と考えられます。
今回は、「コミュニケーション」について掘り下げて行きたいと思います。



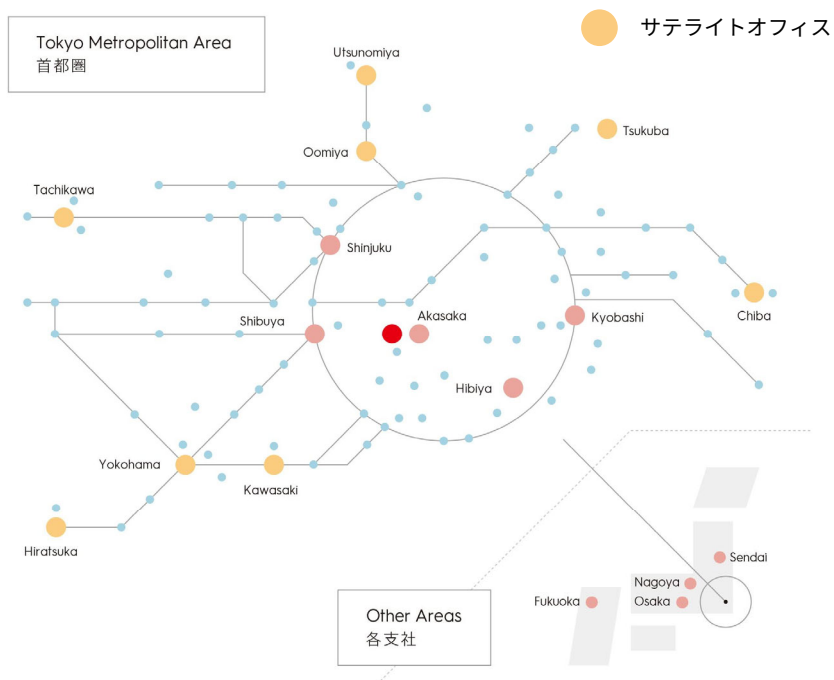
実際にショールームを見てみたいといった方は私たちがご案内します。
気軽にお問合せください。

● オカムラ

部門間を超えたコミュニケーションを促すオフィス運用（分散型オフィス）

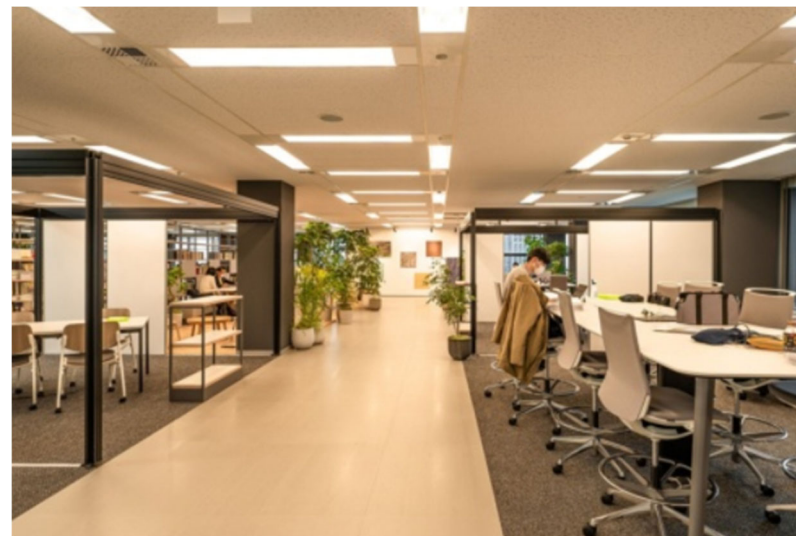
■ 営業支店をサテライトオフィスとして運用

主要ターミナル駅近くの営業支店をサテライトオフィスとして社員が自由に使えるようにし、部門間を超えたコミュニケーションを促しています。



■ ヘッドクォーターオフィスでの工夫

歩く人と目線の高さが同じになるハイテーブルを設置したり、立ち話をしやすいように廊下の幅を広く取ったりするなど、部門の壁を取り払いコミュニケーションを促すしつらえにしています。

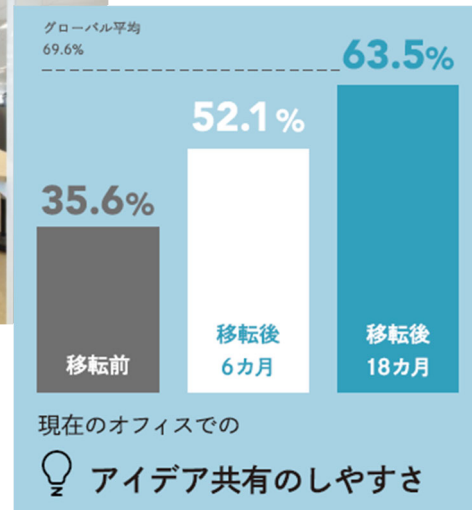


● イトーキ

首都圏オフィスの統合・フロア内の位置情報取得（統合オフィス）

■拠点統合

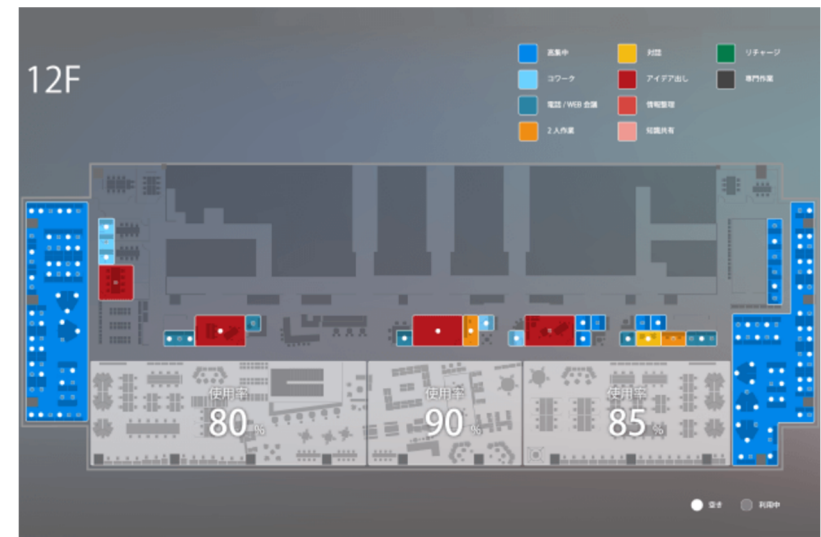
複数に分かれていたオフィスを集約し、2018年日本橋へ統合移転しました。一極集中にすることで、他部署の方とも顔を合わせる機会が自然と増え、部門間を超えたコミュニケーションが可能となりました。



イトーキ社内アンケートより

■ビーコンを使って密回避

出社している社員の位置情報が取れる為、密集しそうなエリアが判別でき、密回避に役立ちます。またフロアのどこにいるのかも判別できるので、能動的なコミュニケーションのサポートにも利用できます。



● コクヨ

社員同士の交流（コミュニケーション）をテーマにした目的別フロア構成（ハイブリット型オフィス）

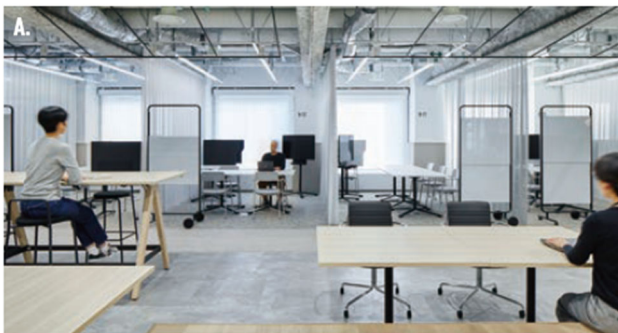
■営業支店をサテライトオフィスとして運用

業務におけるアクティビティで各フロアを構成し、業務内容に併せて場所が選択できる「品川ライブオフィス」

オフィスは「創造性を加速させる場」として、新たな学びや経験、刺激となるつながりが必要であると考え、「経験を拡張する」という新しい働き方を実践しています。

「集う」フロア

集まってディスカッションやコミュニケーションしながらワークをするためのフロア。予約制のスペースをチームの目的にあわせてカスタマイズし、そのチームらしい体験を作り出します。



「遊ぶ」フロア

食事や会話の時間を共有し、チームメンバーへの理解を深め、エンゲージメントを高めるフロアです。目の前の仕事を超えて「今をもっと楽しもう」という遊び心を後押しします。



「試す」フロア

アトリエや長いブックシェルフを中心に、業種特有の専門的な業務やプロトタイピング、検討・検証を行うフロア。機材や環境が整うことで新しいコトやモノを作りたい人が自然とオフィスに集まります。



● Part.4 まとめ

分散型オフィス

統合オフィス

目的別オフィス

場所を選ぶ

一つにまとまる

みんなに会う

■これからのコミュニケーションのポイントは「リアル」
各社の取り組みを見てみると、リアルなコミュニケーションをとりやすくする為に様々な工夫をしていますが、どれも社員が自ら行動を起こすこと（自律性）を促していることがわかりました。



コロナ禍において、オフィスに来る目的は社員同士の「リアルなコミュニケーション」と考える企業が増えています。コミュニケーションは企業が成長していくための潤滑油、テレワークが増え実際に会う機会が減るこれからのオフィスでは「リアルなコミュニケーション」をどう活かすかが重要なポイントと考えます。

● メーカーの取り組みにみる「これからのオフィス」まとめ

生産性



- ・業務内容によって働く場所を選択する働き方

ウェルネス



- ・健康特化型サテライトオフィス
- ・健康促進イベント

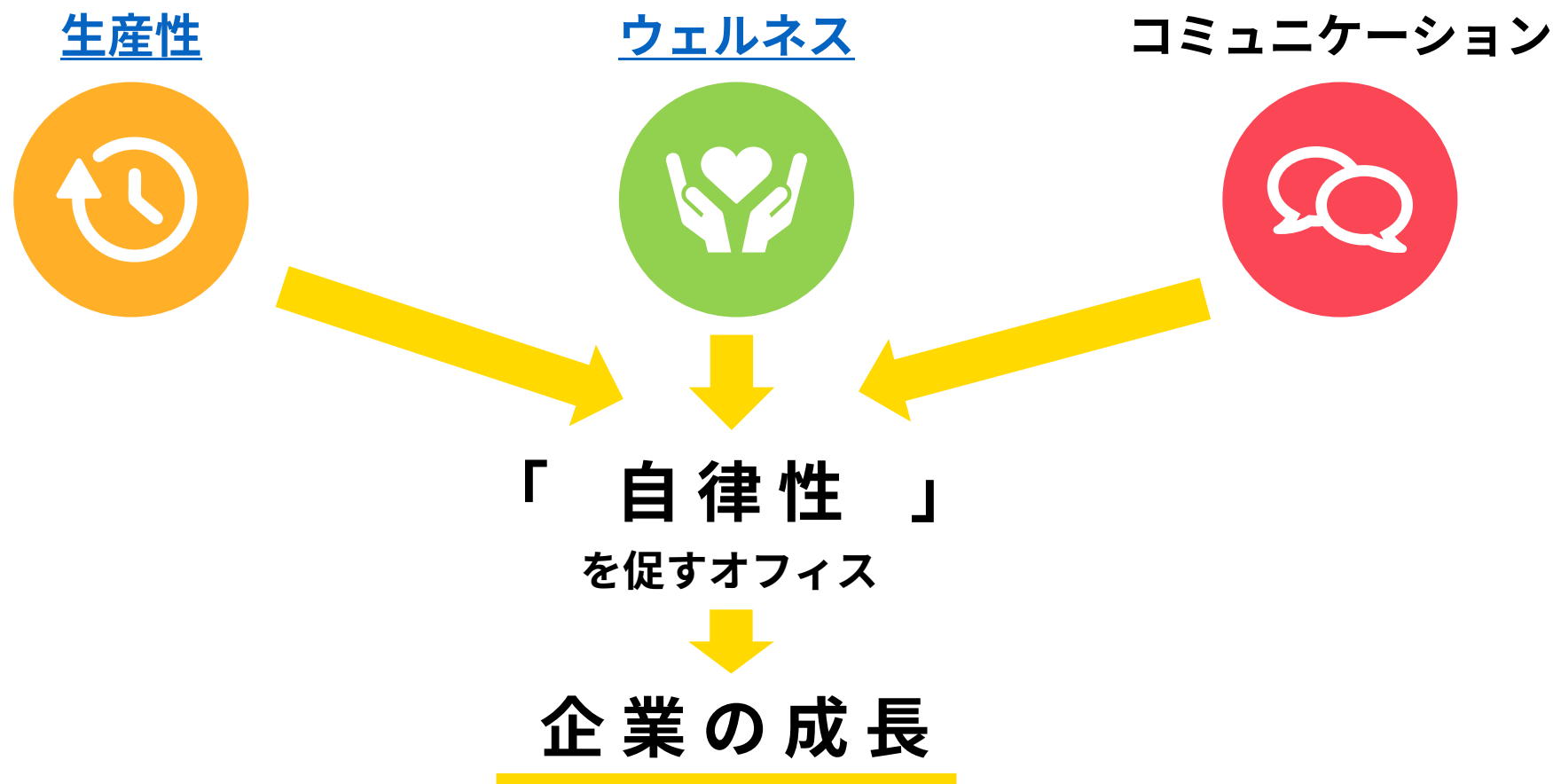
コミュニケーション



- ・サテライトオフィス
- ・位置情報システム
- ・コミュニケーション特化フロア

これからのオフィスは生産性を求める為、テレワークを含めたABW前提の働き方が増えていくと考えます。またオンラインが増える中、リアルなコミュニケーションを創出する生み出しやすい環境作りも必要です。生産性を求めつつも社員の健康がおざなりにならないようサポートする工夫も大切です。以上が各メーカーの取り組みから考察できるコロナ禍における最新のオフィスの考え方となります。

● メーカーの取り組みにみる「これからのオフィス」まとめ



どの取り組みも、社員の「自律性」を促すような環境・運用作りということが言えます。今後、より一層変化の激しい社会になる中、社員一人一人が自律性を持つことで、企業の成長に繋がるのではないのでしょうか。